

コラム フランス、ドイツとの連携を推進

フランス交通・開発・ネットワーク科学技術研究所（IFSTTAR）との第7回日仏ワークショップが9/8～9/10にフランスにて開催されました。土木研究所からは先端技術チーム、新材料チーム、基礎材料チーム、施工技術チーム、舗装チーム、CAESARが参加し、両研究所における最新の研究紹介と「材料と舗装」、「構造」、「地盤工学」の3分野に関するワークショップ、および施設見学とテクニカル・ビジットが行われ、活発な議論が交わされました。また IFSTTAR の組織改変(旧 LCPC(フランス中央土木研究所)からの改変)が行われてから初めてのワークショップであったため、引き続き安定した研究協力を永続的に実施することを目的として、これまでの研究協力協定と同様な協定を今回改めて締結しました。

また、先端技術チーム、施工技術チーム、舗装チーム、トンネルチームにおいては、ドイツ連邦高速道路研究所（BAST）と従来の舗装、トンネル分野に新たに施工技術分野を加えた新たな研究協力協定を9/1に締結しました。本協定は、当該分野における最新の研究内容や研究員の交換、また相互参加のワークショップの開催を可能にするもので、今後活発な研究交流が行われることが期待されます。

その後、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」の活動として、3/11～3/18にドイツ及びオーストリアのインフラ維持管理に関する動向調査が行われ、土木研究所からはCAESARが参加しました。ドイツでは前述のBASTの他、ドイツ連邦材料試験研究所（BAM）を訪問し、意見交換を行いました。BAMでは、インフラの非破壊検査技術の開発を行っており、今後も情報交換を行っていくこととしました。



写真-1 IFSTTAR ワークショップ



写真-2 IFSTTAR 研究協力協定締結



写真-3 BAST 研究協力協定締結



写真-4 BAM の開発した橋梁の非破壊検査装置